

天王寺区地域課題解決担い手発掘事業認定「お寺 de ハロウィン」

特定非営利活動法人 MIRAI PLUS

Q：天王寺は多文化共生でいろいろな国の方がおられるようですが、何カ国ぐらいの方が住んでおられるんですか。

A：そこまでデータは用意していないんですが、日本語学校に聞くと、アジアの方が一番多いようです。最近は東南アジア、中東の方も大分ふえているようですので、本当にいろいろな国の方がすぐそばにいらっしゃるということを改めて感じました。

座長：住職さん、せっかくですので何かございますか。

正木氏：「お寺 de ハロウィン」、皆さん、えっと思われたと思います。日本人は宗教に関して結構ファジーなところがあるかと思います。神社に行っては手を合わせ、結婚式は教会で行い、お葬式ならお寺に来られます。ですから、最初この話があったとき、ハロウィンだけど、収穫祭ということなら日本でも昔から五穀豊穡を祈って神社に奉納したりしていますので、そういうことを考えたら子どもたちにも何か伝えられるのではないかと思います。今回の企画に賛同させていただきました。私自身3年間ブラジルで日系人の方々に布教活動していましたので、日本でも布教活動ができればいいかなと思って、このNPO法人さんと一緒にさせていただきました。

座長：宗派は何ですか。

正木氏：浄土宗です。

Q：おばけ屋敷なんかをお寺でやる予定はないですか。コラボレーションできたらいいかなと思います。



正木氏：ぜひぜひできればいいと思います。今回は「箒神」という妖怪の話をしました。

家でちゃんとはいたりしなさいやと子どもたちに伝えと、家に帰ってからちゃんとお母さんのお手伝いをしたということをお聞きしましたので、成功だったなと思いますので、おばけ屋敷なんかもいいかと思います。

座長：長く続けるコツみたいなことを言われましたが、ここを聞きたいということはございますか。

A：スタッフの面、お金の面の両方なんです、思いとしては、親子で体験する場を設けるということで、今回も大人 1,000 円、子ども 500 円という気軽に来れる料金設定をしておりますので、正直スタッフの持ち出しのほうが激しいところがあります。ただ、続けていくためにはそればかりではなかなか難しいなと。もうけるつもりはありませんが、運営していく上で何かいいお知恵があればと思います。

座長：国際交流ですので、寄附をどう集めていくのかというのが大きな動きだろうと思います。

地球温暖化防止活動の推進による明舞団地の活性化

NPO 法人環境 21 の会

座長：炭に注目をした理由は何があるんですか。

A：日本は京都議定書から CO₂ を減らさないかんというんだけど、実際は 10% 以上ふえているわけです。京都議定書がオーケーになったのは何かということ、森林に CO₂ が吸収されて、その森林の吸収によって一応 6% がオーケーになったわけです。ですから、日本の温暖化防止については森林の保全が物すごく大事なんです。実際に省エネしろとか節電しろといってもなかなかできないなら、森林や竹やぶを保全して、できた木炭を使えと。そしたら、その分だけ化石燃料の使用が減るやないかと。だから、まず具体的なアクションとして炭を使うことによって竹やぶとか森林の保全ができるということです。

座長：CO₂ の吸収源を確保するためには、それがちゃんと有用に回らなきゃいけないと。そのためには森林保護を考えなきゃいけないんだということですね。

Q：炭が使われるのはいいんですが、竹や植物がCO₂を閉じ込めたものを、燃やすことによってそれを出してしまうから、CO₂自身についてはオフセットはしているけれども、結局はそれによって低減されたということにはならないんじゃないですか。

A：そこが一番ポイントで、そこを理解してもらわないかん。それを使ったことによってCO₂は出るけれども、そのかわりに化石燃料は減っているわけです。同時に、私たちは竹炭やケナフというのを燃料だけに使うのではなくて、木炭を消臭に使うとかご飯に入れるとか畑やいろいろなことに使います。そうすると完全に固定し、それが非常に有効になるわけです。明舞団地には食事をつくる場所があって、そこでは必ずご飯に竹炭か木炭を入れますし、コーヒーをつくるためのお水に竹炭を入れるとコーヒーが物すごくおいしい。そういう両面から行っているわけです。

座長：CO₂の循環量としてみれば、カーボンオフセットで低減になっていないんだけれども、化石燃料を使わない分だけ排出量は減らしているはずだということですね。

Q：京都の亀岡に「すいたん農園」というところがありまして、そこはどうしているかというと、炭に腐葉土とかをまぜてそれを畑にまきます。腐葉土は栄養になるなるけど、炭は栄養にならないんです。地面に固定して、それは何になっているかというと、消臭・殺菌効果があるから、それで農作物を生産しているということです。ただ、燃やしてはいけません。燃やすとカーボンオフセットになってしまって、せっかく閉じ込めたものを出してしまって、プラマイゼロになってしまって意味がないということで、すいたん農園ではそういう使い方はやっていないです。

A：生ごみの処理をするときにも炭の粉を入れたら物すごくいいです。

座長：竹重さんが活動されているのは住宅地ですが、住宅地と例えば農地との関係づくりはされているのでしょうか。

A：五色町に築150年の民家があって、周りは全部田んぼです。それをいかに活用するかということで、燃料にできない炭は粉にして、それをばらまくんです。そうすると、ケナフなんかは物すごくよく育ちます。そういう両面から行っています。カーボン・イクイバレントです。

Q：子どもさんがいっぱい来ていらっしゃるんですが、こういうことをやるんだよという伝え方、広報はどういうふうに行われているのでしょうか。

A：私は、松が丘小学校、朝霧小学校の校長とも友だちなので、夏休み、冬休みはそこに行ってお知らせするようにPRしたり、明舞センターの交流広場とか食事どころと組んで

できるだけPRします。15年も前からやっているから、松が丘3丁目の竹重さんのところには太陽光発電の変なものがついとるということも評判になっていますし、そういうことで地域と一緒に頑張って啓発するということに努めています。

座長：竹重さんのところは小学校の総合学習にもかかわっておられて、学校とも関係をつくって子どもたちへのPRされてきたという歴史があるそうです。

たのしく！むりなく！みんなでつくろう！五月田の避難所運営マニュアル

～避難所運営ゲームHUG（ハグ）の実施～

五月田校区自治連合会

座長：自治会、地縁組織、NPO、大学、自治体、こういう連携を非常に大事にされているということですね。

A：自治連合会の組織の全ての方々が1カ月に1回は絶対に寄りまして、そこで会議をして、地域の動きを皆さんにお知らせすることで、それが全体の動きの一番のもとになっていると思っています。

座長：あいまち門真ステーションさんからは何かありますか。

東田氏：いろんな団体が毎月1回顔を合わせて、お互いの団体と組織の悩みごとや問題点や今月の行事、年間行事を出し合って、お互い地域の者が皆知っているという感じの運営をしています。五月田フォーラムは、二十数年連続してやっている地域会議の1つです。地域に存在する問題点を皆で解決しようということで集合して話し合いをして皆で改善を図っていくという会議体です。

Q：HUGのチームとして地域班3つと子育て班がありますが、なぜ子育て班を別に設けられたのでしょうか。それと、子育て班はお母様方が多いようにお見受けしますので、男性では気づかなかったポイントはありますか。



A：まず、自治会長みたいなお父さんグループ、そして青年グループ、そして年は混ざりますが男中心のグループがあって、さらに、女性中心、お母さん方の意見を聞きたいけれども、例えば自治会長と子育て中のお母さん方が会いますと遠慮して意見が出てこなくなる、そうなったら意味がないというご意見が池内先生からありました。本当の緊急時なら遠慮するなんて絶対にならないのだから、もっと自分らの意見を出し合おうということでそういう班を年齢別に設けました。4つの班に分けたことで非常にわかりやすい現象が起こりました。お互いに理解し合って、この年代はこれや、この年代はこれやということが見えてきました。それが今回やってみてよかったなと思うところです。先ほど話がありましたように、最終的なまとめはできていないのですが、27年度は頑張って何とかやりたいという気持ちで、大学のほうも応援しますと言ってくれていますので、何とか進む方向で頑張っていきたいと思っています。

座長：大学との連携をされるきっかけは、市が仲介役をされたんですか。

A：そうですね。門真市の事業として市民大学であったり今回の行事がありまして、その中で防災の話ということで摂南大学と連携しておりますので、先生がご発表されてそれを我々が勉強したということがありました。その中で、地域をもっと盛り上げていこうということを考えるんですが、統一のテーマというのがなかなか見つからないわけですね。お互い考えることが違う。ただ、防災ということはいろいろ話題になっていきますし、自分の命を守る、地域を守る、それは多分利害は関係ないだろうと思って、防災ということに目をやったわけです。

東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり

亀岡市東堅町自治会文化委員会環境部門

Q：南丹町と亀岡のCO₂の濃度差が物すごく大きいんですが、理由は何でしょうか。

A：私の南丹のほうで低くて、亀岡が高いのは、私は百葉箱を自分でつくって2階のベランダに置いていますから、家でストーブをたいても、百葉箱ですから濃度に関係ないんです。ところが、副委員長はベランダに置いているので、ストーブを燃やしたら二酸化炭素の濃度が変わるんです。センサーは防水仕様ではないので軒先に置かれているんですね。百葉箱を買えばいいのですが、町内会の中でやっているものですから、費用の問題があります。

座長：リアルタイムで情報を出されているので、そういったものも皆さんに見ていただけているということだと思います。

地球環境への取り組みというのは大変すばらしいですが、Think Globally、Act Locally とは言っても、自治会のお金を使ってこれをやることについて自治会の皆さんからはどういうふうにご賛同を得られているのでしょうか。

A：確かにごみ問題については賛同があるんですが、CO₂に関しては、今現在はどうでもいいという雰囲気があると思います。CO₂の問題をやってもおもしろくないから人が集まらない。ですから、関心がないところを何とかして盛り上げようということで、出前講座やら文化祭ではパソコンを置いて今何パーセントですということをやっているんですが、なかなか支持が得られないのが現状です。それを何とかしようということで日夜努力はしているんですが、正直、笛吹けど踊らずの状態です。目に見えない、においがしない、このままでも問題ないのに何でそんなんするんや、そんなことしたらお金を損するだけや、石炭使うたらええんや、ガソリンをまき散らしたらええんや、そういう考え方を改めていかないと、子どもたちにいい環境を残せない。私たちはそういうことに理解を得られるようにやっていきたいと思います。

座長：例えば環境家計簿で競わせると、この家は頑張っていますよとか、関心を持ってもらうという意味もありますし、そういうゲーム性を持たせるという方法もあるかと思っています。

A：我々が環境にできることは、やはりごみの分別ですね。資源ごみである新聞紙を燃やしたり混ぜたりするのではなくて、トイレットペーパーなどの再生に回すとか、決められた分類は守る。環境家計簿も手始めだと思います。

書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり

特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会

座長：書を使ってのこういう試みは、ほかでもなされているのでしょうか。

A：いえ、こちらが初めてです。

座長：きっかけは、鎮静さんが書をされていたということからですか。

A：それもあります。それと、防災をテーマにするといいかわからないので、結局、書道の先生が書かれた字をなぞるだけなんですね。そうすると、

どうしても飽きが来ますので、全国展示するとともに賞状をお渡しして、それを励みにしていただきたいと。それもできれば文科大臣賞とか喜ばれるような賞をお渡しできたらいいなと。何よりよかったなと思いますのは、子どもさんと一緒に親御さん、先生方、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に来て会場で喜んでいただけるんですね。そういう場をつくれたのはよかったと思います。そういう意味では、人はたくさん来ていただけるので続けていきたいと思っています。

座長：収益は余り考えないとおっしゃったんですが、相当かかりますね。

A：かなりかかります。持ち出しも多いですが、助成金を利用したり、現在ここまでできて継続できるという自信ができましたので、次回からは出品料を少しいただこうかなと考えています。

～みんなでオモロイコトで楽しもう～コミュニケーションアートで繋がるまちづくり

A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO

座長：A-yan!というのは、通常まちには余りいないタイプの方がまちに入ってきたらどうなるのか、こういうイメージだと思います。

A：こういうおかしな活動をやっているのは、多分日本で僕らぐらいだと思います。もし皆さんのまちで僕たちが必要とあれば呼んでいただければ、僕らはあらわれないなと思います。そこでお金が生まれる生まれへんというよりも、まず先にこういう問題をどないかでけへんかということを提案していただくと、僕らはそれをアートで、先ほどのおばけ屋敷だったりご当地ヒーローだったり、それ以外にもいろいろなことをまだまだやっています。そういうのでどんどん解決して行って、そして知ってもらう、気づいてもらうということをぜひやっていきたいと思っています。

座長：気づいてもらうということは大事なところだと思います。芸術家集団ですから、褒めてもらうとかいいねと言ってもらおうということが1つのモチベーションになっているかと思います。こういう活動もまちづくり、あるいはコミュニティを支えていく1つの活動ではないかと思います。社会悪、マナーを守らないことを悪人にしていましたけれども、これは防災などとも絡めていただいて、防災教育にも使っていただくとかさまざまな応用の範囲が広いかなと思いながら聞いていました。